

がんばろう
南三陸町
復興第 26 号

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集 千葉伸孝

南三陸マイタウン情報

志津川地区の再生への歩みを知りたい

南三陸マイタウン情報では、志津川地区の「まちづくり協議会」の動向を中心に今後情報発信を致します。読者からの強く大きな声に答えるべく活動していきます。

発行所でもある本浜町の「志津川広報センター」も、編集し企画していた会社を失い、平成 23 年 9 月 30 日に「がんばろう南三陸町復興第 1 号」として、「南三陸マイタウン情報」を被災された町民の皆様を中心に、町の現状を伝えてきました。

その中で志津川地区の津波拠点事業としての、3 地区への高台移転の情報が欲しいとの声がありました。被災した事務所であり、町づくり協議会委員になる資格を有し、高台移転部会の委員として当初より係わり、町づくり協議会の進捗を見てきました。月 1 回の町づくり協議会からの資料を参考に「高台移転」「公園」「産業再生」の 3 部会の活動を、記事として掲載してまいります。

[町づくり委員会の任期もせまり、新しく部会員を募集します。多くの方々の参加により、町民の声を町に県に、提言・提案し発言していきましょう]

昨年 12 月 5 日に町長に「中間提言書」を提出！



東地区の東・西・北の三つの場所、中央地区と西地区の東・西の二カ所への、戸建用地希望の住民意向調査が、町の担当課において町内、町外などで個別に相談会が開催されている。

高台移転部分では用地決定の公平・公正を図るため、土地決定までのシミュレーションを部会員間で、中央区・東地区を町職員と UR 職員の、土地決定の案を試している。住民意向に添うと、最終的には抽せんになる。まだまだ決定方法の議論を重ねていく。



志津川地区旧新井田の遺跡調査の、発掘調査現地説明会が、南三地区町教育委員会により昨年 11 月下旬に開催され、遺跡の全容が町民・歴史愛好家に現場視察と説明で報告された。

佐藤教育長の挨拶で「全国から多くの人が集まった」と話し、各地区の歴史ファンが南三陸町「新井田館跡遺跡説明会」に来町した。

志津川地区津波拠点事業の中央区に位置し、600 年前の全丘陵を 25 年 3 月から 11 月中旬まで、1 日 50 名の関係協力者・発掘調査員が 180 日にも及ぶ 1 万人を動員し調査し確認した。

担当職員の説明では、江戸時代のもので「これだけの山の調査は宮城県で 3 例目」と話す。平泉を直轄する場所で鎌倉時代の熊谷家・千葉家が新井田館跡と関係すると推測し、古き志津川地区の歴史ロマンを掻き立てる。

調査を行った教授は、「当町には 3 つの遺跡があり、山城の平場を囲み 8 つの堀があり保存状態も良好」と語る。「2 度の大改修が行われているなど、山城全体の調査をする事は、全国的にもめずらしいと話す。

当日は晴天の元、200 名余りの方々が発掘調査説明会に参加し、高台の遺跡まで 20 名づつが班となり発掘員 68 名の安全確認の中、山城平場から新井田遺跡全容を 6 ヶ所に分け、質問に対して答えを示しながら 1 時間を掛けての説明会だった。85 才の参加者もあり、大昔の町の歴史を感じていた。

今回の遺跡の発掘により、志津川地区の高台移転の影響はないと町は話す。遺跡は全ての調査後

に記録し、山城を解体する方向で、今後進められて行く。



県の立ち上げた津波遺構審議委員会で、議論されていると報道された。南三陸町長は、「復興への障害」「保存維持経費」「遺族・町民の心情」などの観点から、解体をすると報道などで発言している。しかし、現在解体は県の管轄となり、県費での庁舎解体の元にある。遺構としての保存の国からの交付金により、後世に残すべきとの世論の声もあるが、町長が「解体」と決定している事もあり、早期復興へと市街地整備を進めてほしい。

昨年 11 月初旬に「東日本大震災犠牲者 南三陸町防災庁舎慰霊祭」が南三陸町役場跡地でおこなわれ、多くの町民も、遂に防災庁舎が解体されると確信した慰霊祭の開催だった。

大震災で亡くなられた町民・職員や、偶然来町され被災された家族そして関係者など、350 人を超える方々が、防災庁舎慰霊の祭壇に真白な菊を献花した。町職員も大部分が参列し起立したままで慰霊祭に臨んだ。

町長は「観測史上最大の震災が起った。この日を境に生活が一変した。」「住民の避難誘導に 43 名の尊い職員、町民の方々が亡くなられた。」「身をとした活動で町民の命を守った。」「今日までの誇りが生きて、未来への誇りとなるよう、皆さんと頑張っていきましょう」と語った。

杖をつき献花する高齢者の方、家族や母親に手を引かれた子供さんの姿に、多くの方々・報道陣も涙ぐんでいた。多くの南三陸町で亡くなられた遺族の一つの区切りとなった慰霊祭だった。

平成 26 年を迎えこの問題は今後も長引きそうだ。

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成 25 年 (2013 年) 10 月の出来事

～ 地元報道より ～

◇南三陸米 販売開始

JA 南三陸のブランド米「南三陸米」の販売が、10 月 1 日から気仙沼市や南三陸町などの管内で一斉に始まった。販売開始に先立ち気仙沼米穀商業協同組合階上精米センターで出発式が行われ、関係者ら約 30 人が集まり初出荷を祝った。



◇待望のカキ処理場建設

南三陸町戸倉の波伝谷漁港で 10 月 2 日、カキ共同処理場の安全祈願祭が行われた。同漁港内の建設場所にて関係者約 40 人が出席し、工事の安全と一日も早い完成を願った。被災後は仮施設

での作業を余儀なくされていたが、今回の施設は地元への本復旧となる。

◇今月中に燃焼終了

南三陸町戸倉のがれき処理場で施設の撤去が始まっている。すでに幾つかの施設は撤去され、現在は 3 基の焼却炉や造粒処理ライン、土壌洗浄ラインなどが稼働している。今月中にはほとんどの作業を終えて本格的な施設撤去に入る予定だ。

◇福祉施設設置を検討

南三陸町は災害公営住宅に入居する高齢者らに配慮した取り組みとして団地内に「福祉モール(仮称)」の建設を検討している。志津川東地区への整備を予定し、高齢者向け施設だけでなくサロンなど多世代にわたる交流の場にしたい考えだ。

◇懇談会で意見交わす

南三陸町で 10 月 5 日から「災害公営住宅くらしの懇談会」が始まった。仮設住宅を出て新たにコミュニティを形成する入居者や周辺住民らが施設の造り方や共同での使い方などについて意見を交わす集まりで、初日は先行する名足、入谷両地区で開かれた。

◇地域活性へ体験交流

南三陸町で自然や人材を活用したユニークな体験交流プログラム「南三陸おらほの学園祭」が行われた。趣味や特技を持つ町内の人材を講師に、化石探し、まゆ細工、養殖体験など様々な体験があり、地域の魅力を町内外に発信して観光客に「また来たい」と思わせる地域を目指している。



冬に向け爆弾低気圧の発生により、写真の場所では、朝夕道路凍結もあり十分注意が必要だ。

◇生徒だけで避難所運営訓練

南三陸町立歌津中学校で 10 月 12 日、避難所運営訓練が行われた。生徒たちだけで避難所を立ち上げて運営する訓練で全校生徒が参加。次々と寄せられる課題や情報に対処し、円滑な避難所運営を目指した。

◇模範運転励行します

南三陸町で津波復興拠点整備事業に当たっている飛島 JV が南三陸署に交通安全宣誓書を提出し、大型ダンプカーの安全運転を誓った。飛島 JV は東地区東工区で造成工事を行っており、11 月には 1 日あたり最大 450 台の大型ダンプカーが高台と低地部を往復する。

11 月の中旬(11月17日)ベイサイドアリーナから元気な子供たちの声(気合)が聴こえてきた。小さい子供たちから一般まで、東北大会が宮城県南三陸町で開催され、南三陸町の空手愛好家が多数入賞した。

南三陸町総合体育館に 空手のヤー・トーの気合が響く！



宮城県防具付空手道選手権大会

【男子】◆組手・個人

- ▷小学 2 年 - ②三浦琥珀(歌津)
- ▷小学 5 年 - ③狩野海斗(歌津)
- ▷小学 6 年 - ①榊皇秀(志津川)
- ▷一 般 - ③近藤飛鳥(歌津)

【女子】◆組手・個人

- ▷小学 1 年 - ①佐藤海来(歌津)
- ▷小学 2 年 - ③三浦彩菜(歌津)
- ▷小学 4 年 - ①佐々木春香(志津川)
- ②高橋玲菜(歌津)
- ③山内サクラ(志津川)
- ▷小学 5 年 - ②阿部若菜(歌津)
- ③近藤月(同)
- ▷中学2・3年 - ③阿部菜月(歌津)

◆形・個人

- ▷小学生中学年 - ③阿部史歩(歌津)
- ▷中 学 生 - ①阿部菜月(歌津)
- ▷高校・一般 - ③及川夏海(歌津)

南三陸町豆剣士募集中！

志津川剣道スポ少では、来年 3 月から剣道の活動をスタートします。

現在 2 年生男子 2 人、女子 1 人、3 年生男子 1 人の 4 名で、6 月開催の本吉郡団体戦・学年別(4

年生から)個人大会の開催に向けて指導者 2 人で練習をはじめる。(電話 46-3069 千葉まで)

(水・金 6 時 30 分～ 8 時 30 分まで志津川中武道館)

本吉郡剣道新春初稽古会

平成 26 年 1 月 11 日(土)午前 9 時 から
歌津中体育館に於いて 対象は小学校から一般まで

須藤ほの香さん

ローランド・

ピアノ東北本選

「敢闘賞」受賞！

2013 年 12 月 1 日(日)仙台若林区文化センターで「ローランド・ピアノ・ミュージックフェスティバル 2013 東北本選大会」が開催され、柳津小 3 年の須藤ほの香さん(戸倉西戸出身)が小学生部門 A で、東北地区から集まった 19 名の演奏者の中で、「KIBOU」を 16 番目に発表し、敢闘賞に輝いた。

3.11 の大津波で戸倉西戸の自宅を流出し、現在は津山町の総合体育館仮設で生活している。2011 年 4 月から戸倉小に入学をする矢先の大震災だった。そんな中で続けていた大好きなピアノを、「遠藤ピアノ教室」に通い、練習に励んでの成果が実を結んだ。五日町にあった遠藤ピアノ教室もピアノなどの楽器を全て失い、荒砥の自宅を活用して、遠藤先生からピアノを習いたいとの想いの子供たちを指導している。

須藤ほの香さんは「大変です。練習は厳しいけれど、先生はおもしろい」と話す。普段の会話を通しピアノの指導をする。その結果が東北大会で敢闘賞を受賞した。遠藤先生は「子供たちの頑張りを多くの人たちに伝えたい」と語る。しかし今の環境でのピアノ指導は難しいとも話す。

現在は週 1 回の練習で 2 月のコンクールに向け津山町から通い練習を続ける。最後に先生のピアノ演奏とはの香さんの歌で、「かたーい絆におもいを寄せて…」と長渕剛さんの「乾杯」を聴かせてくれた。



未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成 25 年(2013年)

～ 地元報道より ～

9 月の出来事

◆防災の日に救助・避難訓練

地震・津波防災訓練が防災の日の 9 月 1 日、南三陸町内全域で行われた。

南三陸消防署は、志津川魚市場で発生した自損事故の対応中に地震が発生したとの想定で訓練を開始。消防車が住民に避難を促しながら、負傷者を乗せた救急車と南三陸診療所のある高台へ向かった。訓練の終了にはサイレンが流され災害で亡くなった犠牲者に黙祷がささげられた。

◆歌津中が総理大臣賞

南三陸町立歌津中学校が、毎年「防災の日」に合せて災害時の人命救助や防災思想の普及、防災体制の整備などに貢献した個人、団体に表彰されている「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受けた。

同校は震災前から防災教育を積極的に進めており、地域ぐるみの防災にも積極的で、防災思想の普及に貢献したことが認められた。

◆有志が互助会結成

南三陸木の家づくり互助会が 9 月 4 日に発足した。本格的に被災者の住宅建築が始まることを受け、伝統的な相互扶助「結い」で建築を進めようという組織で、労働力、資材をはじめ、情報や技術などを提供し、造成から施工引っ越しまでのできることを協力し合う。

◆志津川高文化祭

志津川高校の文化祭「旭ヶ浦祭」初日の 9 月 6 日、仮装行列が行われ、アニメやゲーム、映画などのキャラクターに扮した生徒たちが仮設商店街や仮設住宅などでチラシを配り、7 日からの一般公開を PR した。

◆就労体験本格的に再開

志津川高校は、今年度から生徒たちが各事業所で就労体験するインターンシップを本格的に再開した。

平成 12 年に始まった取り組みで、2 年生全員が希望した町内の事業所などに分かれて、働くことの喜び、厳しさを学んでいる。本年度は 38 事業所が受け入れ可能となり、114 人が町役場、ホテル、商店、水産加工場などで体験した。

◆縁側活用しアート展

家の縁側にスポットを当てたイベント「テクテクめぐる縁側アート in 南三陸」が 9 月 14 ～ 16 日まで、南三陸町入谷地区で開かれた。3 軒の民家の縁側に手作りの作品を展示し、開放して自由に巡ってもらふ企画で、来場者が写真に収めたり、手に取ったりして鑑賞していた。

◆若手がテーマ別に議論

震災復興計画推進会議が 9 月 17 日、立ち上げられた。委員は 40 代を中心とした 21 人で、復興計画の具現化などについて議論していく。初会合では「人口減少、流出」「住まい」「雇用」などのテーマを検討していくことが決められた。

◆志津川中で職場体験

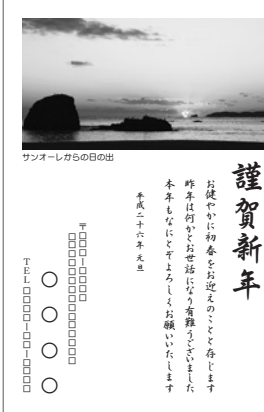
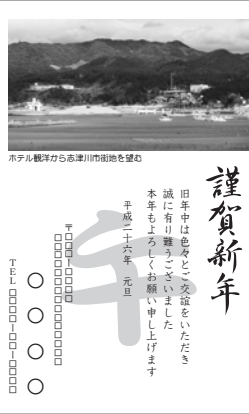
南三陸町立志津川中学校の 2 年生が 9 月 20 日、町内で職場体験を行った。生徒 83 人が町役場をはじめ、南三陸消防署、仮設商店街、コンビニエンスストアなど 20 カ所に分かれ、人間関係の大切さや仕事の厳しさなどを学んだ。

◆読み聞かせ講座開講

県教委主催の読み聞かせ講座が南三陸図書館で始まった。町内をはじめ、気仙沼市、登米市などから、教員や語り部など、読み聞かせに興味がある人たち 30 人が参加。子供たちに読書の楽しさを伝える技術を学んだ。

ふるさとの便りは世のつながり

千葉総合印刷オリジナル風景はがき



◆見本以外にも色々あります◆

ご連絡は ☎ 0226-46-8690 まで

千葉印刷(南三陸町)オリジナルの

はがき(カラー)をどうぞ！

1 枚からでも受け付けます。年末ギリギリや新年明けへの必要となった補充にお使いください。

(12 月 29 日～ 1 月 3 日は休み)

- ・新井田館遺跡
 - ・志津川町風景
 - ・高台移転計画図
 - ・袖浜サンオーレ日の出
- などがあります。

2011.3.11 を忘れない
がんばろう 絆 南三陸町

千葉総合印刷株式会社

代表取締役 千葉 賢二郎
【新工場】志津川商工団地内 〒986-0725
宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (0226) 46-3069
FAX (0226) 46-3068
会社ホームページ
http://chibainsatu-mytownsi.co.jp
E-mail stk69@green.ocn.ne.jp

南三陸町の町民開通・住宅再建の為に
被災住民に向け志津川・歌津の町を今も伝えます。

発行元 **志津川広報センター**
南三陸町の情報 南三陸マイタウン情報 で発信

専務取締役 千葉 伸孝 (発行編集責任者)

HP 作成 情報処理 専務ブログ

◆防災対策庁舎解体へ

南三陸町は、震災によって町職員など 42 人が死亡・行方不明となった防災対策庁舎を解体することに決めた。

9 月 26 日に町役場で開かれた定例記者会見で、佐藤町長が解体の方針を明らかにした。主な理由には八幡川のバック堤、道路工事に影響するほか、周辺のかさ上げにより庁舎がくぼ地になることや、多額の保存費用などを挙げている。

◆高齢者世帯へ消火装置

神奈川県茅ヶ崎市の宮田工業が、火災発生時に住宅天井から消火剤を放出する自動消火装置 50 台を南三陸町に寄贈した。

同社が進めている復興支援プロジェクトの一環で、今冬から仮設住宅の 85 歳以上の 1 人暮らし、夫婦世帯などを対象に設置していく。

◆御詠歌で犠牲者供養

山形県庄内町の歓喜寺の檀家たちが 9 月 28 日、南三陸町歌津地区の寺院を訪問し震災の犠牲者を供養した。

訪問したのは津波で大きな被害を受けた西光寺と津龍院で、3 回忌に合せて訪れた 26 名が鎮魂の御詠歌を唱えながら静かに手を合わせた。